

タケダ・ウェルビーイング・プログラム 2017 成果報告レポート

助成番号 17-2-3

プロジェクト名 病気の子どものきょうだい支援を広げるためのシブリングサポーター養成事業（2）

団体名 NPO 法人しぶたね

所在地 大阪府

助成額 224 万円

設立年 2003年

URL <http://sibtane.com>



（団体について）

当団体は、病気をもつ子どもの「きょうだい」のための団体です。きょうだいが主役になりあそびきるワークショップ「きょうだいさんの日」や、病院内の活動、小冊子の作成配布、講演や、4月10日の「きょうだいの日」にあわせた啓発活動などを行っています。

きょうだいたちは、病気についてわからない不安や混乱、周囲の大人の目が自分に向かない寂しさ、プレッシャー、自責感、悲しみ、怒り…いろいろな気持ちを抱え、感じながら、大きくなっていきます。子ども時代に抱えた経験、複雑な気持ちは、たとえ兄弟姉妹の病気が治っても、きょうだい大人になっても、帳消しになるわけではなく、大人になってもしんどい気持ちを抱え続けるきょうだいもたくさんいます。

保護者の方々もきょうだいのことを心配しながら、治療やケアに追われてなかなか思うようにきょうだいと過ごせずに悩んでおられたり、ご自身を責めてしまうということが起こっています。そんな保護者の方々の悩みを受け止めておられる支援職の方々からもまた、きょうだいたちに何をしてあげられるだろうと悩んでおられる声を聴いています。きょうだいたちのしんどさを、きょうだいや家族だけで抱えるのではなく、もっと社会のたくさんの人で関わっていけることがあるのではと感じ、活動をひろげてきました。

（助成による活動と成果）

昨年度に続き、きょうだいの応援団を増やしつなげるための「シブリングサポーター研修ワークショップ」を開催地を広げて4回行い（大阪府、群馬県、和歌山県、福井県）、この1年で162名のシブリングサポーターが誕生しました。

今年で2回目となったサポーターミーティングでは、きょうだい支援を広める会の有馬靖子さんを講師に招き「やすこさんに聞いてみよう！—どうしてきょうだい支援をはじめたの？どうやってきょうだい支援を成長させてきたの？世界各国のきょうだい支援はどんななの？」をテーマに、世界のきょうだい支援の流れと現状を学び、その後のグループトークでは、日々の実践や職場で出会うきょうだいのことや、これからきょうだいプログラムを始めるにあたって悩んでいること等をそれぞれのグループでアドバイスし合ったり、励まし合ったりする時間を過ごしました。

この年に1度のサポーターミーティングで全国的なネットワークをつくっていくことを目指していますが、研修ワークショップを行うこと自体が、それぞれの地域での関係者のネットワーク作りにつながっていることにも気づき、相乗効果できょうだい支援の輪が予想よりも早く広がっている実感

があります。

また、初の試みとして、さまざまな分野できょうだい支援を進めておられるリーダー的存在の方に集まっていただき、現在の日本のきょうだい支援の到達点と今後進むべき方向性を確認することを目的に「きょうだい支援リーダー会議」を2回開きました。第1回はそれぞれの実践についてご発表いただいて共有し、第2回では残りの団体の実践発表を終えた後、参加団体の活動を「分野別」「きょうだいの年代別」にホワイトボードにまとめ、課題を整理しました。

この内容を、きょうだい支援の世界的な先駆者であるドナルド・マイヤー氏を招聘して開催した講演会の中で発表し、マイヤー氏から「20年足らずの短い期間でこれだけのことを成し遂げた国は他にない。」「日本でもアメリカでもほかの国でも道のりが長いのはどこも同じだけれど、重要なステップを踏んでいる。」とコメントいただきました。

会議を開催したことできょうだい支援の全体像が見えるようになり、自団体の位置、目指すべきことも見えやすくなりました。今後も必要に応じて、たとえばワーキンググループのような形で連携することで、きょうだいを取り巻く課題の解決につなげたり、さまざまな分野で同時に社会に発信することで、ひとつひとつの実践や研究では難しかったきょうだい支援の大きなうねりを起こしていきたいと考えています。

（残された課題、新たな課題）

シプリングサポーター研修ワークショップは、開催希望の連絡は絶えずあるので、引き続き開催地域を広げ、新たなプログラム立ち上げの協力なども行っていくための資金確保の工夫と、広報ツールの作成が課題として残っています。また、研修ワークショップやリーダー会議は、きょうだい支援に携わっている方々の情報整理や士気を高めることにつながったので、次は「きょうだい支援って何だろう」と感じてくださっている市民の方々向けにきょうだいのおかれている状況や実践、課題などについて知っていただく方法を考えなければならないと感じています。また、きょうだい支援をすすめていくために必要な連携先として、教育関係者や研究者、行政、企業とのつながりが薄いので、ネットワークを広げることが必要と感じています。

（活動の背景・社会的課題）（団体からのメッセージ）

活動を始めて16年目になりました。「健康なきょうだいにサポートが必要なのか？」と聞かれていた頃に比べ、きょうだいに光が当たることが増え、状況が変わってきているのを肌で感じています。きょうだい支援の考え方や取り組みが広がることで小児慢性特定疾病児童の自立支援事業や、厚労省の医療的ケア児と家族を支援する予算にも「きょうだい支援」が加わるようになりました。この、かつてないきょうだい支援の波を途切れさせず、たくさんの仲間とともに大きくしていきたいです。

きょうだいたちが安心して自分の人生を自分らしく過ごすことができるように、きょうだいも当たり前前に大切にされる文化を作っていくために、より多くの方にきょうだいたちの声が届くよう引き続き頑張ります。

以上